



真(新)の豊かさ・価値観の育成(変革) ～持続可能な社会を自ら創造できる次世代育成～

グループ名：ESD for U.15+

メンバー：朝井貴裕、河合基樹、高比良直也、長坂充代

チューター：九里徳泰、雪田和人、杉山範子

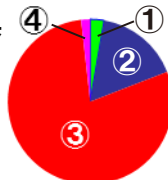
現状の把握

現状のESD実践状況は十分ではない。

★ESD(Education for Sustainable Development)とは
持続可能な開発(発展)のための教育(環境省 こども環境白書より)
⇒「私たち一人ひとりが気づき、主体となることができることを考え、行動するための学び」

◇ESDの認知度 内閣府 平成26年世論調査結果

- ①知っている(意味もわかる):2.7%
 - ②言葉だけは聞いたことがある:16.4%
 - ③知らない:79.1%
 - ④わからない:1.8%
- 8割以上が認知無し



◇小学校・中学校(U.15)への浸透状況

- ・ユネスコスクール登録校数 小学校2.5%、中学校:2.2%
- ・ユネスコ世界会議が開始された愛知、岡山でも約10%

◇教育現場でのヒアリング(小学校5校実施)

- ・“ESD”を指導する優先順位が低下 ⇒認識が薄らいでいる

2036年に向けての提言の概要

■20年後“ESD”の考え方が浸透している世界を目指す!

※30歳前後の中核的な人材が育成されている社会

真(新)の豊かさは、自己的・物質的な豊かさだけでなく、みんなが幸せに暮らせるよう一人ひとりの行動が見直されたときの豊かさ

“真(新)の豊かさ・価値観”を自ら創造出来る
“次世代育成”強化を目指し

学校では実施しきれない
体験型・参加型の“場”を企業参加で創り

推進強化に向けた体制づくりと
県内関連団体とのネットワーク強化を図る

提案の内容

■“場”の選定 ⇒団体(企業)への働き掛け

- 愛知県の特徴を活かし、“ESD”の観点で分野別に参画頂く

国際理解・文化・生物多様性を中心に選定

※AELネットで登録されている施設以外を基本

<施設例>

- リトルワールド●明治村●なごや地球広場●愛知こどもの国●デンパーク
- 中部国際空港●稲永ヒジターセンター●藤前活動センター●刈谷市美術館茶室等

■中核(事務局)になる団体による、取りまとめで推進力強化!

- 主要関連団体の概要確認と連携の可能性検討

関連団体名	関連活動概要	連携の可能性
名商ecoクラブ	環境問題に取り組んだことによる経済メリットの訴求	△
※EPOC (次世代交流分科会)	環境行動の契機を企業・学校・地域との交流や情報発信で実施	○
※EPO中部	中部地域の市民・NGO/NPO・企業等幅広いネットワークで環境訴求	○
※なごや環境大学	市民・市民団体・企業・行政が協働でつくる環境活動ネットワーク	○
AELネット	民間や自治体の環境学習施設のネットワーク組織で施設情報提供	◎
※中部大学	生物多様性・環境学習(伝統)文化に重点をおいたESD学習実施	○

提案実現のための具体的な取り組み(アクションプラン)と実現可能性

- AKJ(あいち環境塾の卒業生及びこの指導者を中心に運営されるNPO)が中核の“Next Stage of Love Wisdom”を運営し、賛同企業及び愛知県と連携して推進



2036年(20年後)に向けた マイルストーン

- <STEP1>(～2018年):“場”&“ネットワーク”の確立
- <STEP2>(～2020年):賛同企業等の完全実践状態 ※東京オリンピック
- <STEP3>(～2026年):次世代による活動活性化状態
- <STEP4>(～2036年):真(新)価値による「豊かな」社会実現

波及効果



●企業

見せる/伝える・・・社内への啓発活動に繋がる
ESDが発信されることによって、企業価値が向上
⇒ステークホルダーへの訴求アップ

●愛知県

■これまでも先進的に対応してきた愛知県が進めて行くからこそ、全国に活動が加速する。

- ・ESDユネスコ世界会議が愛知で開催(2014.11).
- ・ユネスコスクール登録数ナンバーワンの愛知(小中学校含め、加入率約10%)。

■愛知県経済の活性化

- ・ESDのイベントを核に、県への集客力を向上させ、観光業の訴求も図る。